11/28 Fri

研　究　者　**小林大真**（栗ガ丘小）
共同研究者　**佐藤和紀**
（信州大学 教育学部 准教授）

自立した学び
～子ども自ら学ぶための教師の支援とは～

「子どもたちが自信を持って未来を歩んでほしい」。この強い願いを胸に、私は「自立した学びを育む授業実践」を追求してきました。一斉授業での ICT 活用や探究活動を通して見えてきたのは、教師主導の学びだけでは十分に力を引き出せないという課題でした。これからの時代を生き抜く子どもたちには、自ら課題を見つけ、考え、解決していく「自立して学んでいくこと」が不可欠だと痛感しました。

今年度、いくつか実践を通して、教師の「思考を深める問いかけ」や「励まし・肯定」の言葉が、子どもの学びを促す上で非常に有効であることを実感することができました。子どもたちがより深く学ぶためには、教師が教えるだけでなく、子ども同士で学び合う環境が不可欠だと確信しました。そこで２学期からは、週に１回、学び合いの時間を設けています。特定の友達との関わりに留まらず、異なる進度や考えを持つ仲間と関わることで、学びを広げ、深めるねらいです。この取組により、今まで特定のコミュニティでしか学べなかった子どもたちが、他のコミュニティの友だちから積極的に学んだり、自ら進んで説明したりする姿が見られるようになりました。

公開授業では、「単元を超えた自由進度学習」にも挑戦します。過去の学習内容を振り返りたいという子どもの声に応え、領域ごとに学びを進められる環境を整えてきました。子どもが「やってみたい！」「面白そう！」と感じられるような導入を全体で共有しています。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両立させることで、教師対子どもだけでなく、子ども同士の対話から学びが生まれると考えています。子どもたち自身が互いに教え合い、学びを深めることで、多様な視点から学習を捉えられるようにと願っています。

子どもたちが自ら考え、学び続ける力を育むために、私はこれからも試行錯誤を続けていきます。当日は、子どもたちの学んでいる姿を学び合いたいと思います。

共同研究者 佐藤先生から

デジタル学習基盤を活用した個別最適な学びと協働的な学びは、ICT にばかり目が行きがちです。しかし、小林先生の授業は、徹底して１人１人を見取り、１人１人にとっての深い学び（見方・考え方は働いているのか、既有知識や本時・単元において取得・収集した知識や情報を相互に関連付けたり、情報を精査したりしながら考えを形成しているか（すなわち情報活用能力））が実現できるよう授業設計をしています。１人１人にとっての深い学びを考えたときのデジタル学習基盤とは何か、次期隔週指導要領で目指す姿を考えるきっかけになる時間になればと思います。

～日 程～

①	受付	13：20～13：35
②	開会式	13：40～13：55
③	公開授業	14：05～14：50
④	座談会	15：00～15：45
⑤	講演会	15：50～16：35
⑥	閉会式	16：40～16：50

本文（ブックレット vol.144）.indd　22　2025/09/25　15:57:06